大阪医科薬科大学病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

専門研修基幹施設である大阪医科薬科大学病院，専門研修連携施設である国立循環器病研究センター，兵庫県立こども病院，関西労災病院，市立ひらかた病院，高槻赤十字病院，松下記念病院，康生会武田病院，城山病院，第一東和会病院，北摂総合病院，洛西シミズ病院，シミズ病院，岡波総合病院，天理よろづ相談所病院，十条武田リハビリテーション病院，畷生会脳神経外科病院，赤穂市民病院，心臓病センター榊原病院，大阪医科大学三島南病院，千船病院，守口敬仁会病院，宮崎善仁会病院，公立八鹿病院，中部徳洲会病院，大阪労災病院，和歌山県立医科大学附属病院において，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供する．**麻酔，ペインクリニック，集中治療，救急医学，緩和医療を網羅したジェネラリストと，心臓血管麻酔，小児麻酔，産科麻酔などの専門分野を有するスペシャリストの両面を備えた麻酔科専門医を育成する．**

本研修プログラムでは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する．

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている．

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 4年間で手術室麻酔の各専門分野（心臓血管麻酔，　小児麻酔，産科麻酔など）を網羅的に研修するだけでなく，麻酔科専門医に求められるペインクリニック，集中治療，救急医療，緩和医療に関しても一定期間研修する．
- 研修の前半2年間のうち少なくとも1年間は，専門研修基幹施設の大阪医科薬科大学病院で研修を行う．
- 専門研修基幹施設では手術麻酔だけでなくペインクリニックや集中治療を調整の上，一定期間ローテーションする．
- 希望により国立循環器病研究センター，兵庫県立こども病院のいずれかで1年間の研修を行う．
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する．

最低経験症例を満たしながらも，各自の希望を相談しサブスペシャリティーの構築を目指す柔軟なプログラムとする．

2019年度入局レジデントの研修先

	1年目	2年目	3年目	4年目
A医師	大阪医科大学附属病院	天理よろづ相談所病院	心臓病センター榊原病院	大阪医科薬科大学病院
B医師	大阪医科大学附属病院	天理よろづ相談所病院	国立循環器病研究センター	大阪医科薬科大学病院
C医師	大阪医科大学附属病院	松下記念病院	第一東和会病院	大阪医科薬科大学病院
D医師	大阪医科大学附属病院	大阪医科大学附属病院（前半） 愛仁会千船病院（後半）	大阪医科薬科大学病院	大阪医科薬科大学病院
E医師	大阪医科大学附属病院	市立ひらかた病院	兵庫県立こども病院	大阪医科薬科大学病院
F医師	大阪医科大学附属病院	葛城病院（前半） 北摂総合病院（後半）	第一東和会病院	大阪医科薬科大学病院

- 1年目は大阪医科薬科大学病院で、心臓血管外科、呼吸器外科、産科、小児科、脳神経外科の麻酔を2ヶ月ずつ集中的に研修する。
- 手術麻酔以外では、ペインクリニック、集中治療、救急医療の中から2分野を2ヶ月ずつ研修する。

2020年度入局レジデントの研修先

	1年目	2年目	3年目
A医師	大阪医科大学附属病院	天理よろづ相談所病院	心臓病センター榊原病院
B医師	大阪医科大学附属病院	天理よろづ相談所病院	兵庫県立こども病院
C医師	大阪医科大学附属病院	北摂総合病院	天理よろづ相談所病院
D医師	大阪医科大学附属病院	松下記念病院	第一東和会病院
E医師	大阪医科大学附属病院	愛仁会千船病院	愛仁会千船病院
F医師	大阪医科大学附属病院	城山病院	第一東和会病院
G医師	大阪医科大学附属病院	市立ひらかた病院	市立ひらかた病院

実技試験対策のシミュレーション

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

大阪医科薬科大学病院

研修プログラム統括責任者：日下裕介

専門研修指導医：南敏明（麻酔，ペインクリニック）

梅垣修（集中治療）

中平淳子（心臓血管麻酔）

日下裕介（心臓血管麻酔，集中治療）
間嶋望（小児麻酔）
門野紀子（集中治療）
下山雄一郎（集中治療）
今川憲太郎（集中治療）
駒澤伸泰（気道管理，緩和医療）
中野祥子（小児麻酔）
出口志保（集中治療）
上野健史（小児麻酔）
中尾謙太（ペインクリニック）
長峯達成（心臓血管麻酔）
佐野博昭（ペインクリニック）
北埜学（小児麻酔）
山崎智己（心臓血管麻酔）
藤澤貴信（心臓血管麻酔）
倉橋直仁（心臓血管麻酔）

麻酔科認定病院番号：19

特徴：2016年4月1日より、新中央手術棟（手術室20室、集中治療室16床）が新設され、麻酔科医局はこれらに隣接しています。当院では、2020年度、全手術件数11,692件、麻酔科管理症例6,691件の実績があります。豊富な麻酔症例を経験でき専門医必要症例を全てバランスよく研修することが可能であり、さらに集中治療・ペインクリニックの研修も可能です。また、種々のセミナー（麻酔科学関連だけではなく、学会発表のためのPower Pointの使い方、統計など）の開催、専門医試験対策、学会発表・論文作成の指導、将来の志望に応じた人事面でのサポートなどを行っています。

大阪医科薬科大学病院手術棟3階

②　専門研修連携施設A

国立循環器病研究センター（以下，国立循環器）

研修実施責任者：大西佳彦

専門研修指導医：大西佳彦　（心臓麻酔、経食道心エコー）
吉谷健司　（神経麻酔、脳脊髄機能モニタ）
金澤裕子　（心臓麻酔、低侵襲モニタ）
南　公人　（集中治療、心エコー）
前田　琢磨（心臓麻酔）
下川　亮　（心臓麻酔）

専門医：加澤昌広　（集中治療）
森永将裕　（心臓麻酔）
細谷俊介　（心臓麻酔）

麻酔科認定病院番号：168

特徴：センター手術室は12室であり、そのうち4室はハイブリッド手術室である。ロボット手術専用室やCOVID対応印圧手術室も設置している。2021年はCOVIDの影響で症例の少ない月も見られたが、ほぼ前年と同程度であった。緊急大動脈解離手術は100症例を超え、ロボット手術を含む小切開心臓手術も120症例以上であった。また、劇症型心筋炎や

心筋症増悪に対する左室補助装置装着手術も50症例以上と増加し、心臓移植も12症例に施行した。麻酔科医はスタッフ6名レジデント17名で対応した。集中治療専属医は2名であった。休日を含めた毎日、麻酔科医2名が当直、集中治療室でも1名当直、オンコール2名ですべての緊急症例および集中治療室管理に対応した。2022年はスタッフ麻酔科医8名、集中治療医2名とレジデント18名で対応していく予定である。

③　専門研修連携施設A

兵庫県立こども病院（以下，こども病院）

研修実施責任者：香川哲郎

専門研修指導医：香川哲郎（小児麻酔）
高辻小枝子（小児麻酔）
大西広泰（小児麻酔）
池島典之（小児麻酔）
廣瀬徹也（小児麻酔）
上嶋江利（小児麻酔）
末田　彩（小児麻酔）

麻酔科認定病院番号：93

特徴：小児・周産期医療専門病院として、一般的な小児外科症例や各科の小児症例のほか、新生児手術、小児開心術、日帰り手術、血管造影等の検査麻酔、病棟での処置麻酔、緊急帝王切開等、一般病院では扱うことが少ない症例経験が可能.小児がん拠点病院、地域医療支援病院、小児救急救命センター.

④　専門研修連携施設B

関西労災病院

研修実施責任者：興津賢太

専門研修指導医：上山博史（麻酔、産科麻酔）
興津賢太（麻酔）
田村岳士（麻酔）
清中さわみ（麻酔）
中野一菜（麻酔）
福原　彩（麻酔、救急、集中治療）
安江雄一（麻酔、救急）

専門医：　奥野亜依（麻酔）
田中みちる（麻酔）
石丸紗也佳（麻酔）
稲垣佳苗（麻酔）

中村　藍（麻酔）
中島友理奈（麻酔）
麻酔科認定病院番号：327
特徴：阪神地区の急性期医療の中核病院。消化器外科（胃、食道、大腸、膵臓）、呼吸器外科、泌尿器科、産婦人科でロボット支援手術を行うなど領域によっては大学病院以上の医療を実践。また心臓血管外科、脳外科症例も豊富。

⑤　専門研修連携施設A

市立ひらかた病院（以下，市立ひらかた病院）
研修実施責任者：宮﨑信一郎
専門研修指導医：赤塚正文（麻酔・緩和・ペインクリニック）
宮﨑信一郎（麻酔・ペインクリニック）
吉本嘉世（麻酔）
三木聡子（麻酔）
杉本創（麻酔・緩和・ペインクリニック）
浅野美鈴（麻酔）
麻酔科認定病院番号：956
特徴：基幹型臨床研修病院（緩和ケア病棟付き）
北河内医療圏（人口 110 万人）唯一の公的（市立）病院
第 2 種感染症医療機関
災害医療センター

⑥　専門研修連携施設A

日本赤十字社　高槻赤十字病院（以下，高槻日赤）
研修実施責任者：宇田るみ子
専門研修指導医：宇田るみ子（麻酔）
澤井俊幸（麻酔）
麻酔科認定病院番号:1703
特徴：周手術期における麻酔管理に必要な基本的知識・技術の習得ができる。呼吸器、血液疾患を有する患者が比較的多い。

⑦　専門研修連携施設B

康生会　武田病院（以下，武田病院）
研修実施責任者：原　直樹

専門研修指導医：原　直樹（麻酔）
麻酔科認定病院番号： 1001
特徴：地域医療支援病院

⑧　専門研修連携施設B

医療法人東和会　第一東和会病院（以下，第一東和会病院）
研修実施責任者：田中源重
専門研修指導医：田中源重（麻酔，ペインクリニック）
高橋陵太（麻酔，ペインクリニック）
麻酔科認定病院番号：1374
特徴：緊急手術が多い。ペインクリニックと緩和ケアも行なっている。

⑨　専門研修連携施設A

清仁会　洛西シミズ病院（以下，洛西シミズ病院）
研修実施責任者：村谷忠利
専門研修指導医：村谷忠利（麻酔，ペインクリニック）
麻酔科認定病院番号： 1355
特徴：整形外科中心の麻酔であるため、多発外傷の麻酔が多いことが特徴。
また、研修中にペインクリニックの研修も可能である。

⑩　専門研修連携施設A

赤穂市民病院（以下，赤穂市民病院）
研修実施責任者：長尾靖之
専門研修指導医：横山弥栄（麻酔，ペインクリニック）
長尾靖之（麻酔）
吉松 茂（麻酔）
片山英里（麻酔）
麻酔科認定病院番号：559
特徴： 気候の温暖な、災害の少ない立地の西播磨地方の中核病院です。360床の中小病院ですが 各科の垣根が低く、周術期にも連携してチーム医療ができています。2021年度からは乳腺外科と呼吸器外科の手術が再開されますが、現在 産婦人科常勤医不在のため帝王切開はありません。消化器外科と整形外科の手術が多い傾向です。麻酔科常勤医2名、週3日勤務2名で、全員が専門研修指導医なので、手厚い指導の下に麻酔手

技を数多く経験していただけます。またペインクリニック学会指定研修施設であり、希望があればペインクリニックの研修も可能です。

⑪　専門研修連携施設A

パナソニック健康保険組合松下記念病院（以下，松下記念病院）

研修実施責任者：村田博昭

専門研修指導医：趙　崇至（麻酔，緩和）

楠　大弘（麻酔，集中治療）

塩見真由美（麻酔）

専門医：大地史広（麻酔，集中治療）

麻酔科認定病院番号：139

特徴：地域医療支援病院であり、大阪府のがん診療拠点病院である。

⑫　専門研修連携施設B

医療法人春秋会　城山病院（以下，城山病院）

研修実施責任者：辻井英治

専門研修指導医：辻井英治（麻酔）

麻酔科認定病院番号：　922

特徴：地域医療支援病院

⑬　専門研修連携施設B

社会医療法人仙養会　北摂総合病院（以下，北摂総合）

研修実施責任者：西原　功

専門研修指導医：西原　功（麻酔）

麻酔科認定病院番号：997

特徴：地域医療支援病院。循環器診療に注力しているため、循環器合併症を持つ患者が多い。

⑭　専門研修連携施設B

医療法人清仁会　シミズ病院（以下，シミズ病院）

研修実施責任者：奥野隆司

専門研修指導医：奥野隆司（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1445
特徴：脳外科を主体とした急性期医療

⑮　専門研修連携施設A

社会医療法人 畿内会 岡波総合病院（以下，岡波総合病院）
研修実施責任者：西澤 伸泰（麻酔）
専門研修指導医：西澤 伸泰（麻酔）
髙井 規子（麻酔）
中尾 慎一（麻酔）
麻酔科認定病院番号：1233
特徴：二次救急病院として、地域医療に貢献しています。

⑯　専門研修連携施設B

公益財団法人　天理よろづ相談所病院（以下，天理よろづ）
研修実施責任者：石井久成
専門研修指導医：石井久成（心臓麻酔）
石村直子（麻酔）
若松拓彦（麻酔）
山口直城（麻酔）
麻酔科認定病院番号：83
特徴：当院では、ほぼ全科に及ぶ多種多様な手術の麻酔を行います。年間麻酔科管理手術数が約3500例です。なかでも心臓血管外科手術は200例を越える心臓血管麻酔専門医認定施設です。特に緊急の大動脈解離・破裂、CABGのような、麻酔科医のスピードと度胸と判断力がためされるような症例が多くやってきます。小児期に当院で心臓手術を受けた成人の心臓再手術、いわゆるAdult Congenitalが漸増しており麻酔科医にとってチャレンジングな管理を要求されます。TAVIは1000例を越え、ほとんどの症例を局麻・鎮静（MAC）で行います。超重症ASの深鎮静下の呼吸・循環管理はとてもスリリングです。

⑰　専門研修連携施設B

医療法人財団医道会　十条武田リハビリテーション病院
研修実施責任者：大塚みき子

専門研修指導医：大塚みき子（麻酔）
茂山泰樹（麻酔，ペインクリニック）
麻酔科認定病院番号：1701
特徴：地域医療支援施設
高齢者の整形外科麻酔、超音波ガイド下区域麻酔を利用した麻酔

⑱　専門研修連携施設B
社会医療法人信愛会　畷生会脳神経外科病院（以下，畷生会脳神経外科病院）
研修実施責任者：山名健
専門研修指導医：山名健（麻酔，ペインクリニック）
平田昌史（麻酔）
麻酔科認定病院番号：1368
特徴：週に2回のペインクリニック外来

⑲　専門研修連携施設B
社会医療法人社団十全会　心臓病センター榊原病院
研修実施責任者：石井智子
専門研修指導医：石井智子（心臓血管麻酔）
木村素子（心臓血管麻酔）
麻酔科認定病院番号：1142
特徴：　心臓外科領域の麻酔が主である。ＴＡＶＩ、ＭＩＣＳも症例数が多い。

⑳　専門研修連携施設B
大阪医科薬科大学三島南病院（以下，三島南病院）
研修実施責任者：辰巳真一
専門研修指導医：辰巳真一（麻酔）
麻酔科認定病院番号：1352
特徴：当院は、大阪医科薬科大学病院や地域医療機関と連携して、救急・急性期医療から回復期・療養医療まで幅広い医療を提供するとともに、血液浄化センター、デイケアセンター、訪問看護ステーションを整備しているケアミックス型病院です。

㉑　専門研修連携施設B

社会医療法人愛仁会千船病院（以下，千船病院）
研修実施責任者：水谷光
専門研修指導医：水谷　光（麻酔，手術室）
河野克彬（麻酔）
奥谷　龍（麻酔，教育）
藤田和子（麻酔）
魚川礼子（産科麻酔）
角　千里（産科麻酔）
星野和夫（麻酔）
大山泰幸（麻酔）
麻酔科認定病院番号：770
特徴：地域周産期母子医療センター、MFICU（6床）、NICU（15床）、ICU（4床）等を備え，24時間母体搬送に対応しています。分娩件数は2,300件/年と大阪随一です。ですので，一般手術麻酔に加えてハイリスク妊婦を含めた帝王切開（690件/年）や無痛分娩（600件/年）等の産科麻酔を経験することができます。また、減量・糖尿病外科が新設されて高度肥満症の腹腔鏡下肥満手術を行っているほか、低侵襲手術支援ロボット「ダヴィンチ」が導入され、より低侵襲の手術も増加しています。2021年度の麻酔科管理件数は3,817件/年、うち全身麻酔は1,888件/年でした。2017年7月に阪神電車なんば線「福島駅」前に新築移転しました。大阪市西淀川区にあります。

㉒　専門研修連携施設B

社会医療法人彩樹　守口敬仁会病院（以下，守口敬仁会病院）
研修実施責任者：金　芳成
専門研修指導医：三宅　均（麻酔）
金　芳成（麻酔）
麻酔科認定病院番号：1148
特徴；腹部救急症例の手術が多い。

㉓　専門研修連携施設B

社会医療法人善仁会　宮崎善仁会病院（以下，宮崎善仁会病院）
研修実施責任者：栗山和子
専門研修指導医：栗山和子（麻酔）
麻酔科認定病院番号：1902

特徴：宮崎市東部地区における地域医療の中核病院であり、救急医療とへき地医療による社会医療法人の認可、災害拠点病院等の指定を受けています。2021年4月に内科系の系列病院及び総合健診センターと合併し、健診部門を兼ね備えた199床の急性期病院として、手術を中心として病院運営を行っております。主に外科、消化器外科、呼吸器外科、整形外科、婦人科、耳鼻咽喉科の麻酔管理を研修することができます。

㉔　専門研修連携施設B

公立八鹿病院（以下，八鹿病院）
研修実施責任者：林　行雄
専門研修指導医：林　行雄（麻酔）
　　富　勝治（麻酔）
麻酔科認定病院番号：898
特徴：兵庫県西南但馬における地域医療の中核病院であり、へき地医療拠点病院、地域医療支援病院等の指定を受けています。380床のケアミックス型病院であり、各科の垣根が低いことも特長です。主に一般手術の麻酔管理を研修することができます。

㉕　専門研修連携施設B

医療法人　沖縄徳洲会　中部徳洲会病院（以下，中部徳洲会病院）
研修実施責任者：與座　浩次
専門研修指導医：大湾　喜市　　麻酔科
　　伊波　寛　　集中治療科
　　與座　浩次　　麻酔科
　　服部　政治　　疼痛治療科
　　前　知子　　疼痛治療科
　　専門医：古賀　寛教　　集中治療科
　　徳川　茂樹　　疼痛治療科
　　新垣　かおる　麻酔科
　　溜渕　昌美　　疼痛治療科
　　田畑　春奈　　疼痛治療科
麻酔科認定病院番号：　713
特徴：沖縄県中部地区にある病院。豊富な症例数で質、量ともに多くの経験を積める。麻酔症例だけでなく腹腔神経叢ブロックなど、がん疼痛治療症例も多数経験できる。

㉖　**専門研修連携施設A**

独立行政法人労働者健康安全機構　大阪労災病院（以下，大阪労災病院）

研修実施責任者：松浦康司

専門研修指導医：松浦康司（麻酔・救急）
宮田嘉久（麻酔）
山下淳（心臓麻酔）
喜志暢之（心臓麻酔）
横川直美（麻酔・ペインクリニック）
溝渕敦子（麻酔・ペインクリニック・緩和医療）

麻酔科認定病院番号：197

特徴：当院は 670 床を有し政令指定都市堺を支える中核病院として毎年 4000 例の麻酔科管理を行っている（なお眼科を含めた総手術件数は 10000 例を超えている）。今年 1 月に新病院への移転を無事に終え、手術室は 16 になった（ハイブリッド 1 室）4 月から麻酔科管理枠を増やし今後の手術のニーズに対応していくつもりである。麻酔業務以外では週 3 日のペインクリニック外来を行っており、専門医の指導の元治療にあたっている。がん拠点病院として緩和医療にも今後介入していくつもりである。

㉗　**専門研修連携施設A**

和歌山県立医科大学附属病院

研修実施責任者：川股知之

専門研修指導医：川股知之　（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）
水本一弘　（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
栗山俊之　（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）
時永泰行　（麻酔）
藤井啓介　（麻酔、区域麻酔、心臓血管外科麻酔）
山﨑亮典　（麻酔、区域麻酔）
樋口美沙子（麻酔）
谷奥　匡　（麻酔、神経麻酔）
平井亜葵　（麻酔）
黒崎弘倫　（麻酔）
吉田朱里　（麻酔、小児麻酔、心臓血管外科麻酔）
神田佳典　（麻酔）

専門医：若林美帆　（麻酔、集中治療）
荒谷優一　（麻酔）

古梅　香　（麻酔、集中治療）
丸山智之　（麻酔、ペインクリニック）
山﨑景子　（麻酔、集中治療）
西畑雅由　（麻酔）
山本香寿美（麻酔）
小川舜也　（麻酔、ペインクリニック、集中治療）

麻酔科認定病院番号40

特徴：　ペインクリニック、緩和ケア、集中治療のローテーション可能

ロボット支援手術・経カテーテル大動脈弁留置術など先進的手術症例、高度救命救急センターならではの救急手術症例など多くの手術症例を経験できる。また、無痛分娩、エコーガイド下・透視下ブロックを駆使したペインクリニック研修、緩和ケア病棟・チームでの研修、集中治療の研修といったフレキシブルな研修ができる。

4.　専攻医の採用と問い合わせ先

①　採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2021年９月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する．

②　問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，大阪医科薬科大学病院麻酔科専門研修プログラムwebsite，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

大阪医科薬科大学医学部麻酔科学教室　教授秘書 谷村
大阪府高槻市大学町2番7号
TEL 072-683-1221　内線2368
E-mail　eri.tanimura@ompu.ac.jp
Website　http://www.osaka-med.ac.jp/deps/ane/Ane-index-J.html

5.　麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

①　専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力

３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には，大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており，専門医取得後もシームレスに次の段階に進み，個々のスキルアップを図ることが出来る．

②　麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③　麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

6.　専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

7.　専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA 1〜2 の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修 2 年目

1 年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪い ASA 3 の患者の周術期管理や ASA 1〜2 の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる.

専門研修 3 年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる. また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する.

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる.

8. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録 : 専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する. 研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される.
- 専門研修指導医による評価とフィードバック : 研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う. 研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる.

② 多職種による専攻医評価

年度ごとに多種職（当院では現在のところ、看護副部長兼中央手術室看護師長、集中治療部看護師長、臨床工学技師長補佐、中央手術室担当薬剤師）による専攻医の評価について、文書で研修管理委員会に報告し、次年次以降の専攻医への指導の参考とする.

③ 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修 4 年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわし

い①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

9. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

10. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

11. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告

できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

12. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての天理よろづ相談所病院，岡波総合病院，赤穂市民病院，宮崎善仁会病院，八鹿病院、中部徳洲会病院など幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

13. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価を行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導する．